

2016 小笠原フォトコンテスト 結果発表

小笠原村産業観光課

※敬称略

※作品の無断使用禁止



最優秀賞 「タツキーの豪快なブリーチング」 伊藤 康紀

■榊原特別審査員コメント

水しぶきの衣装をまとって小笠原の海舞台で見せてくれた見事なブリーチングです。飛んでいる姿がとても美しい。素晴らしいタイミングです。背景が暗く落ちているためにクジラの姿が浮き上がって見えてきます。ザトウクジラのシーズンの海況はいつも穏やかとは限りません。ブリーチングをするクジラはどこに飛び出すかわかりません。確実にクジラをフレーミングに捉えて写すには早いシャッターを切るのが無難です。しぶきの表情に変化をつけるならスローシャッターもお試しを。

近頃では親子クジラのWブリーチングや「3連続ジャンプを見たよ」などの話も聞きます。うらやましいですね。ぜひ遭遇してみたいものです。子育てをすることをに適したゆたかで平和な小笠原の海。クジラに名前が付けられ呼ばれているのも素敵ですね。



マリン部門賞
「大人華の舞」 小石川 光範

■榊原特別審査員コメント

ウシバナトビエイが群れて泳ぐ姿を見てみたい。
ずっと思っていますがなかなか実現しません。
優雅に舞っていますね。
ダイビング中の人々が写っているのでウシバナトビエイの大きさがわかるのがいい。
右側前方に余韻を持たせ、やや右上がりの方向に泳ぐ群れのラインが相乗効果を生んで躍動感を感じる画面を作っています。
潮の流れを感じることができますね。



フィールド部門賞
「明日への架け橋」 加藤 雄介

■榊原特別審査員コメント

これほどの星空が中心街からわずか数分のところで見られるとはすごいなあ。
天の川がくっきりですね。
星空と風景を組み合わせた写真を撮るには小笠原は最適なところですね。
この作品は前景の人物がストーリー性を感じさせてくれる組み合わせですね。
最近のデジタルカメラは暗いところの画質が格段に良くなっています。
比較明合成やタイムラプスなどの機能を使って新しい表現を見つけるのも楽しいです。
写真を撮らなくても小笠原のまったりとした暖かな夜の空気の中でゴロンとなって星空を見上げる解放感、神秘感、驚きはぜひ味わってほしいところ。



ヒューマン部門賞
「太古への祈り」 藤本 美樹

■榊原特別審査員コメント

とても小笠原らしい象徴的な要素にあふれた作品です。

何よりも美しい画面に目を奪われました。

小港海岸の枕状溶岩。

小笠原フラを踊る人。

衣装の鮮やかさや、しぐさの柔らかさとコラボして不思議な雰囲気を出しています。

異国情緒たっぷりの楽園の情景。



特別賞
「カラフル」 森 浩伸

■榊原特別審査員コメント

うわーきれい！作品見たときに思いました。

作者のコメントにあるようにヘルフリッチ(和名:シコンハタタテハゼ)はなかなかお目にかかれない魚だそうです。4、50メートルのところに生息しているようですね。

珍しいものに出会った時ほどシャッターを押すときに冷静になれるかどうかはポイントですが、高揚感も楽しみたいですね(笑)この作品はとても冷静に丁寧に撮影しているにもかかわらず、ワクワクした作者の感じがカラフルな画面をとおして伝わります。

背景の美しさも見事。

ヘルフリッチの半身だけを見せて色の美しさを抽出している。おしゃれですね。



特別賞
「夏の青」 古川 智美

■榊原特別審査員コメント

まさに小笠原の青ですね。
何の変哲もない写真のようですが小笠原に長く暮らしたり、何度も通っている小笠原が大好きの人たちからすると「これこれ、この感じだよね」と思ってしまう作品です。
もちろん私も大好きな光景です。
眺めているだけで小笠原にまた行ってみたくになります。



特別賞
「マクロな固有種」 富田 マスオ

■榊原特別審査員コメント

母島では貴重なマイマイの固有種が生息しています。
ガイドさんに案内していただかないとなかなか見つけられない小さなものが多いようですが、進化の過程がingで進んでいる森はぜひ体感してみたいですね。
写真のオガサワラベッコウマイマイはかなり小さなものですが、光沢感の出た肉厚の葉っぱのうえで存在感のある生き物として捉えられていますね。
作者の小笠原の自然、森への愛情がたっぷりと込められた作品と言えます。



■ 榊原特別審査員コメント

小笠原の島っ子は素敵な海や森があつての
びのびと育っていますね。
小笠原ならではの森の景観です。固有種が
いっぱい。タコノキは好きだなー。
子供たちが歩いてゆく森の先に何が待ってい
るのかな。
一緒に歩いて行きたくなる素敵な作品です。
雨にぬれた森もまた違った魅力があるのでお
勧めです。

特別賞
「さあ、行こう！」 石井 亮



■ 榊原特別審査員コメント

おがさわら丸、ははしま丸、共に2016
年に新造船となりました。
ますます快適になって小笠原に行きやす
くなりましたね。
新ははしま丸を迎へに出たイルカのジャン
プ。
よくこんなタイミングでイルカが出てくれま
したね。
空を見るとカツオドリも飛んでいるんです
ね。
作者はもっている？(笑)

佳作(マリン部門)
「はじめまして」 飯高 和也



佳作(マリン部門)
「海ハイジ」 上口 勝

■榊原特別審査員コメント

「いくつになっても笑顔になれる」とは、作者のコメント。わかりますねー
小笠原に来るとなぜか心が解放されます。沖に沈船が見えます。境浦海岸ですね。静かで素敵な海岸。ここで見る夕景もいいですよ。



佳作(マリン部門)
「Heeeelloooooow (Hello!)」 板垣 朝子

■榊原特別審査員コメント

見つめあってますね。自然の中でこんなことあるんですね。うらやましい体験です。明るいきれいな光が差し込んでいるのでカメの甲羅の模様がとてもきれい。水中マスクの上に取り付けられたカメラの映像をぜひ見たいですねー。



佳作(フィールド部門)
「グリーンペペ林」 栗原 浩

■榊原特別審査員コメント

これだけたくさんのグリーンペペは久しぶりに見ました。

母島の人から「昔は、灯りなしで道の両側のグリーンペペの光で道を歩けたことがあった」と聞いたことがあります。

闇の中で光ると実際より大きく見えますね。カメラの高感度性能が良くなっていますがグリーンペペ撮影は三脚があると良いですね。グリーンの色をしっかりと出すとインパクトが強くなります。



佳作(フィールド部門)
「初花火～汽笛と共に～」 米田 直人

■榊原特別審査員コメント

新年を迎える花火ですね。カメラのポジションが素晴らしい。おがさわら丸の汽笛が聞こえてきますよ。花火の光跡が共鳴しているようです。



佳作(フィールド部門)
「初上陸」 米田 由香

■榊原特別審査員コメント

人の気配が全くない南島。
異惑星に降り立った感覚です。
何度来ても感動しますね。
クサトベラの緑色が効果的に配されています。
雲の表情でこの島はいろいろな顔を見せてくれますよ。



佳作(ヒューマン部門)
「飽きない時間」 矢野 一馬

■榊原特別審査員コメント

素敵な時間を過ごしていますね。
母島、南崎に通じる遊歩道を抜けるとこの風景に出会えます。
途中、小富士に立ち寄ってみるのもお勧めです。
小笠原では自分の好きな場所を見つけて一日中ポケーツと過ごしてみるとよいでしょう。
贅沢な時間を過ごせますよ。



佳作(ヒューマン部門)
「Wonder」 福本 玲央

■榊原特別審査員コメント

雨上がりのきらきらと輝く森ですね。日差しを見上げる男性の顔に光が差し込む瞬間。素敵なシャッターチャンスです。木性シダの曲がった幹が不思議なバランス感を画面に作り出していますね。不安定な画面からは森の緑(森の精)が迫ってくる感じがします。



佳作(ヒューマン部門)
「いってらっしゃ〜い！」 土屋 秀司

■榊原特別審査員コメント

父島のお約束。出航シーンは何度体験しても感動してしまいます。アオトウからのこのアングルいいですね。広角レンズの歪んだ画面がいい味を出していますよ。「行ってらっしゃーい」と見送られると「すぐにかえってくるよー」と心に誓ってしまいます(笑)



特別審査員 写真家 榊原 透雄

■榊原透雄(さかきばら ゆきお)プロフィール

フリーの写真家。自然・風土・旅・愛をテーマとして撮影。小笠原の撮影は1980年代の前半から。雑誌に国内、海外の旅のレポートを多数掲載。写真集は小笠原の自然風景を撮影した「ボニンの島から」(IPC)が代表作。「東京都ガラバゴス」(NTT出版)「好きになっちゃった小笠原」「好きです小笠原」(双葉社)など共著として写真ページを担当。また、小笠原の風景写真撮影ツアーや、画家・岩岡航路氏との共同作品展『ボニンス80作品展』を小笠原現地限定で企画開催するなど、撮影地での交流を大事にしながら取材撮影活動が続けている。

最新作は楽学ブックス 世界遺産小笠原(JTBパブリッシング)
公益社団法人 日本写真家協会(JPS)会員。